



### 【取組内容】

- 障がい者当事者団体と、ラオスに障がい者が働き暮らす施設を設立。**ラオスと日本の障がい事業所が協力し、**お土産品を製造、地元企業に納品することで、**国を超えて障がい者が支え合う仕組み**を確立。
- ラオスでは身体障がい、日本では精神障がいを持つ人々と職業訓練を行い、**質の高い製品**を作れるようサポート。ラオスと日本の伝統の織りをコラボした製品は評判が良く、ラオス国内のみならず**日本の百貨店等の催事で販売や製品を中心とした全国展**を開催。
- 伝統的に女性が主要な労働者である布づくりを活動の基礎にしている事もあり、**活動の中心は女性で、女性の障がい者も男性と同じ労働から同じ収入が得られる仕組み**となっている。

### SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性：	国を越えて互いのできることを組み合わせ、障がい者雇用を促進するスタイルは、他国・他地域にも普及可能。
包摂性：	女性を中心として、各国の多様な障がい者、開発途上国の少数民族や貧困地域の住民の生活水準向上に貢献。
参画型：	障がい者、地域住民、少数民族、ビジネス関係者、地方自治体、アドバイザー、学生など多様なステークホルダーが参画。
統合性：	安定的な運営を行うべく地域経済に根付かせ、障がい当事者と少数民族の女性達の雇用を創出し、顔の見えるものづくりを重視。
透明性と説明責任：	SNSやブログ、紙媒体のニュースレターの発行・配布により情報を広く発信。ボランティアの参画等を含むオープンな活動を意識。

